

令和8年度第1回庄原市外国語教育研修会

令和8年6月19日（金） 庄原市立庄原中学校

<研修会の目的>

- ・ 中学校外国語科の授業研究を通して、本市中学生の実態及び中学校の取組を知るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導方法の在り方について研究を深める。
- ・ 外国語科の授業づくりのポイントについて理解を深めるとともに、校区内の小学校、中学校の取組や状況について協議することを通して、本市外国語教育の充実に資する。

【研究授業】第1学年 Unit2「Our New Teacher」

授業者 庄原市立庄原中学校 教諭 藤井 遥、ALT Jesse Noe

単元の目標

約2か月を一緒に過ごした学年の先生たちに、先生たちがまだ知らないクラスメイトのステキなところをよく知ってもらうために、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合ったり、話したりすることができる。

本時のめあて

聞き手とのやり取りを楽しみながら、クラスメイトのステキなところについて伝えることができる。

<指導のポイント>

- ・ 単元のゴールに立ち返り、誰に、何のために、何を伝えるのか、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を生徒と確認することで、生徒の伝え方や伝える内容の質の向上を目指す。
- ・ 個人・ペア（やってみる）→中間指導（深める）→ペア（再チャレンジ）の流れで授業を行い、言語活動を通して指導する。



【研究協議】生徒が主体的にコミュニケーションを行うための指導上の工夫について

<協議内容>

- ・ 中間指導で内容面、言語面の振り返りや新たな視点を与えるということを、実際の授業で見ることができ、とても参考になった。
- ・ 中間指導では、生徒の活動を振り返らせるだけでなく、困ったことや良かった表現を取り上げ、生徒に考えさせて答えを探し出していくことが全体の理解につながっていた。また、振り返りを全体で共有することで、振り返りの質が向上するとともに、どのようなポイントを意識して話すべきかを再認識する機会になっていた。
- ・ ALT を効果的に活用されていた。自分も ALT との連携を密にして授業を行っていききたい。
- ・ 指導者の「こんな授業にしたい」という思いの伝わる授業だった。自分も、「英語が楽しい」とどの子供たちも思えるような授業づくり、雰囲気づくりをしていきたい。

【講話・交流・協議】「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた外国語科の授業づくりについて」 庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福原 理恵

- 小中の接続を意識した外国語科の授業づくりについて全体で確認した。その後、それぞれの校区での取組状況や、中学校区で目指す児童生徒の姿、共通して取り組むこと等について交流・協議を行った。

<参加者の振り返りより>

- ・ 交流を通して、小学校卒業までに、間違いを恐れずに話すことができることや、ヘボン式のローマ字、単語や表現を音で覚えて声に出すことができることなどを身につけさせておくことが大事だとわかったので、そこを意識して取り組んでいきたい。
- ・ 小中で交流する機会はあまりないのでよかった。「書くこと」について、小学校と中学校の認識の差があることに気付くことができた。今後の指導に活かしていきたい。
- ・ 小学校の先生方が育ててくださったコミュニケーションに対する関心・意欲を中学校でも継続できるようにしたい。
- ・ 外国語担当者を中心に、本日交流・協議した内容を還元していく。中学校区で取り組むことについては、全職員で共有し、徹底して取り組んでいきたい。

2.小中の接続を意識した外国語科の授業づくりのポイント

- ☐ 単元で身に付けさせたい力を児童生徒の姿で具体的に設定しましょう。
- ☐ 児童生徒が「やってみよう」と感じる魅力的な言語活動を設定しましょう。
- ☐ 児童生徒の英語を使う時間を十分に確保しましょう。
- ☐ 言語活動を繰り返し行い、言語活動を通して指導しましょう。
- ☐ 教師自身が積極的に英語を使い、児童生徒との英語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

（スライド資料より）



（交流・協議の様子）